「水を守る」

沖縄県　平良市立北中学校
三年　友利翔耶

　毎日のように何気なく使っている「水」。僕達は、水道が整備されてから当り前のように飲料水や生活用水として使っています。僕を含めたほとんどの人々が「水はあって当然」「いくら水を使ってもなくならない」と考えていると思います。しかし、そうではないのです。まず水は、僕達の体・健康を維持するために、とても重要です。それに僕達の命を守る上で欠かせないもののひとつではないでしょうか。

洗面をした後、ポタポタと落ちる滴を見て、
「しっかり水をとめて、もったいないでしょ。」
と、厳しい母の声。
「ちょっとしか出てないからいいさあ。」
すると、
「この少しの水を一時間溜めたらどれだけになると思っているか。塵も積もれば山となると言うでしょ。」
と、またも母の声。僕はその言葉を聞いて、思わず納得してしまいました。雨が降った日にバケツに雨水を溜め、花や木にやったり、水槽の水を変えたりしているのを見ると「自然や水の事をよく考えて生活しているんだな」と思いました。

　僕の住んでいる宮古島には、川がないため他の都道府県のようにダムに水を貯めることができません。宮古島のほとんどは、雨水の地下への浸透性が高いといわれている琉球石灰岩で形成されています。だから、畑に肥料をまいた後、無駄に定められた水量以上の水をまくと肥料の成分が地下に流れ地下水を汚していくのです。又、肥料分が流れると土に残る肥料分がわずかとなり、その分を補うためにさらに大量の肥料を必要とし、どんどん地下水が汚染されていくのです。地下水は地下の環境よりも地上の環境に、大きな影響を受けているといえるのです。だから、地上の環境汚染が進むと、地下水も汚れ僕達の使う水、直接口にする水がどんどん汚れていくのです。「安全で安心して飲める水がいい」と思うのなら、日頃からポイ捨てをするとその分、自分の飲む水が汚れていっているという「意識を持って行動する」ということがより重要になってきます。水は限りのある資源という事に対しても同じ事なのです。水の無駄使いをすると使える水が、減っていきます。その事を、日本中の人々が『意識』し行動すると、かなりの量が節水できると思います。水は僕達のものではなく、地球・自然が長い年月をかけて育てていった「貯金」を借り受けて生活しているのです。この「貯金」は数百年先の僕らの子孫も必要とするものなのです。それをたった数十年で減らしたり、汚して使えなくするということは、将来の僕達を、僕達の子孫をも苦しめるのです。

　僕は、とても貴重な水を守っていくためには、井戸水を汲んで生活していた先人の考えを学ぶべきだと思います。なぜなら昔は、水の入った重たい水がめを頭に乗せたり、バケツを持ったりして、数キロも離れた井戸を行き来していたそうです。だから水を無駄使いするとその分、仕事が増えていくのです。

　他にも、水を守るためには、地球が誕生してから今まで約四十億年もの間、水はこの世を支えてきたと言えるのです。水がなければ生命は誕生しなかったかもしれないと考えて水のありがたみを感じる事が大切なのです。また、僕達の使っている水は地球が長い年月をかけて育ててきた「貯金」を借りているという事を感じ生活していく事も重要です。

　僕達は、この水危機といわれる時代を迎え今までより一層、水というものへ関心を持ち自分自身が必要とする水は、他の誰も守ってくれないと意識して自分で守っていくことです。そのためには、一人一人が水を大切に思う事、節水を心がけること、水は生物を支えているものだと意識して生活する事が重要です。

　「命（イヌチ）どう宝」のように、「水どう宝」です。

「水の価値に感謝して」

沖縄県　石垣市立名蔵中学校
二年　狩　俣　雅　代

「水道から甘くて美味しいジュースが出てきたらいいのに。」
学校の水道から流れてくる水を見て、時々私はそう考えてしまいます。何度飲んだって変わらない水の味。私の好きなジュースのように、心から美味しいと感じることはありませんでした。
体育の授業があったある日の事です。太陽の照りつけるとても暑い日でした。
「今日暑いし、きついしさ。もう走りたくないよ。」
と、文句を言う私に、友達は、
「もう少しだから、がんばろうよ。終わったら一緒に水飲みに行こう。」
といい、一生懸命に走っています。でも、目の前に水道があり、それを見た私は、我慢ができずに水飲み場まで行き、水をいっぱい飲みました。
「ぬるくて美味しくない。」
そうです。炎天下の下では、外の水道水は熱さのため、ぬるくなっていました。がっかりして私は、みんなのところに戻りました。走り終えて充実感のある顔で自分のタイムを見ている友達。先を争うように水飲み場へ走ります。やがて、水を口にした彼女は、
「頑張って走った後の水って、いつもより何倍も美味しいよ。」
と、日に焼けた輝いた目で言ったのです。
私は、もう一度水を飲んでみました。やっぱり、いつもと変わらない味でした。その時私は気づいたのです。水には、汗をいっぱい流し、一生懸命頑張った人にしか味わうことのできない「努力の味」があることを。
私だって美味しい水を飲みたい。
それから私は、心を入れ替えて、どんなに暑い日でも、弱音を吐かず頑張りました。走り終わると疲れたけど、すがすがしい気持ちで私は、まちきれず水道の蛇口を捻り水を飲みました。
心と体を癒やしてくれるような優しい味で私は何度も何度も水を飲みました。
水ってこんなに美味しかったんだ。
私はこの時、水の大切さや素晴らしさ、そして、水の美味しさを知ったのです。
もう、水道から甘くて美味しいジュースが出てきたらいいのに、なんて思いません。
私の飲んでいる水は、いつも眺めている於茂登岳に降った雨が集められ、私達の集落まで届けられたものです。緑の木々の枝を伝ってダムに集められる水がとてもいとおしく思えてきました。
私が小学校一年生の時、地域に「名蔵ダム」ができ、その除幕式では、私達一人一人が思いを込めて描いたパネルをダムにとりつけました。ダムを大切にしたいという思いが幼い私の心に芽生えたことが思い出されます。
名蔵では、農業が盛んで、さとうきびや、マンゴー、パイン、アセロラといった果実栽培、花卉栽培が行われています。農家の人々にとって、ダムは農作物に安定して水を与えてくれる欠かせない施設です。
私達にとって大切な水は、安全でおいしく安心して利用できるように、様々な施設を使い、また、水資源開発に携わる多くの人々の努力で支えられています。
当たり前のように思って普段は気にしていなかった水のこと、あらためて考えてみると何にも代えられないありがたさを感じます。
水は貴重な財産であり、人々にとって、かけがえのないものです。形を変え、用途を変え、広く生活に関わっています。生きるものすべてにとって大切な水、命を支えている水、身近にあるけれど、限りある資源ということも忘れないでいたい。私は、これからは、一滴、一杯の水に感謝しながら、大切にしていきたいと思います。
水に教えられた「努力の味」は、水の持っている価値でもあることを心にとめて。

「命の源」

ドイツ　ハンブルグ日本人学校中学部
二年　藤田絢子

もしも、水がなくなったら…。

今の私達に、この様な事が本当に起こるとしたらどうなるだろうか。おそらく生活をすることが出来ないはずだ。水がない生活とは私にはとても考えられない。つまり、普段使っている水が、私達の生活では欠かすことのできない物となっているのだ。水は、有限で貴重な資源だ。私が三才まで住んだ、中東カタール国では、砂漠の中にあるため海水を淡水化して、真水を作っている。世界中では、この様な国が沢山ある。しかし、日本では、水は沢山ある。だからといって、むやみに使って良いというわけではない。今の人々は、「水なんて沢山あるじゃない。それに、ちょっとぐらい、無駄に使っても平気。平気。私達はどうせ困らないし。」という考えの人が沢山いるはず。これが、日本人の水に対する考え方ではないだろうか。

私の住んでいるドイツでは、飲み水としては、あまり適していない地下水が流れている。では、この地下水をどう利用するのか。洗い物、洗濯、庭の水まきなどに使うのだ。他にも、雨水をトイレに使用したりしている学校もある。私はある学校を訪問した。その学校の地下室には、一つのタンクに雨水が一〇〇〇リットル入るタンクが六つもあった。六〇〇〇リットルの水で七つのトイレが二週間も使えるそうだ。また、この学校は、節水で浮いたお金で、タンクをあと四つ買いたいそうだ。この様に、ドイツではとても環境について積極的に取り組んでいる。

自然にも目を向けてみよう。ハンブルグには、アルスター湖、エルベ川という、素敵な湖と大きな川が流れている。アルスター湖は、沢山の白鳥や木々が、きれいな水と一緒になり、絵画のような風景を作っている。とても心にゆとりを与えてくれる。エルベ川もそうだ。あの大きな船を乗せて、どこまでも流れていく水が、人に大きな感動を与える。それは、風景の中の水面の輝きが人々の心に美しさを与えたり、水と木々の美しい調和が、心に安らぎを与えてくれたりするからである。このように、水には、人の心にゆとりを与えるという、素晴らしい力がある。湖と川。これらにとって、水は命。人間にとっても、水が命。全ての物に対して水は命の源なのだ。

大切な水・きれいな水をいつまでも、保つためには私達には、何が出来るだろう。水の出しっぱなし、湖・川へのごみのポイ捨て、家庭から出る汚れた水が川へ直接流れてしまう、などと言った問題を解決しない限り、大切な水・きれいな水は保てないだろう。まず、家庭で使う水の量を減らしてみては、と私は思う。ある資料によると、一人が日常、家庭生活で使用する水の量が約二百五十リットル。そして、家庭における水の使用割合は、お風呂二十六％、トイレ二十四％、炊事二十二％、洗濯二十％、洗面・その他が八％。これらは工夫さえすれば、もっと割合を減らす事が可能だと思う。例えば、洗い物をする時に、水の出しっぱなしをやめる、洗剤を沢山使わないなどといった事や、お風呂に入ったあとのお湯を洗車に使う、お米のとぎ汁を植物や花にあげる…。私達に出来る事は、沢山あるのだ。

一つでもいいから、小さい事でもいいから、みんなが出来る事をやるべきだと思う。

水が有限で貴重な資源という事を忘れてはならない。今の私達、現代を生きている人達が、大切な水・きれいな水を守り、次の世代、そしてまた次の世代、未来を生きていく人達に、それを残していくべきではないかと、私は思う。

生命誕生の源であった水。それは、未来にとってかけがえのないものである。

第 27 回「全日本中学生水の作文コンクール」ポスター

8月1日～7日は「水の週間」8月1日は「水の日」です。

Photo / 第19回「水とのふれあいフォトコンテスト」 ■グランプリ:「雄水」吉田 光子 ■優秀賞:「豊稔ダム放水」松田 昇 ■優秀賞:「夜のウォーターフロント」能登 正俊 ■優秀賞:「鴨川の水遊び」木下 正治 ■特別賞:「静穏の刻」天野 尊敬 ■特選:「ボクの舟」大熊 政彦

水は、地球上のあらゆる生命の源です。
また、水は、自然の力によって循環する資源です。
水は、この循環の中で私たちの毎日の暮らしや、農業、工業などの産業活動を支える重要な資源となっているほか、地域の個性ある豊かな水辺環境や文化の形成にも大きな役割を果しています。
この重要な資源である水を私たちの暮らしの中で不自由なく使えるように、ダムをつくって水を貯めたり、水をきれいにし各家庭に配るなど様々な努力がなされています。
この機会に、水についての理解を深めるとともに、この限りある貴重な水資源を未来に引き継ぐため、日常生活での体験や両親、先生から学び聞いた話などをもとに、
いま一度水を見つめ「水について」考えてみましょう。

水について考えよう！

考えてみよう。当たり前にある水が、実は当たり前じゃないかもしれないということを。

募集案内

- **テーマ** 水について考える（題名は自由）
- **例題** 「大切な水」「水不足を体験して」「命を支える水」「ダムの役割」「水と暮らし」「水源を守る」「水のある風景」等
- **原稿** ① 400字詰原稿用紙4枚以内、日本語で記入された個人作品
  ② 本文の前に題名、学校名（ふりがな）、学年、氏名（ふりがな）、を明記して下さい。
- **募集期間** 平成17年4月1日（金）～5月12日（木）【到着分有効】
- **あて先**
- **中央審査会の賞**
  - ○最優秀賞……賞状、盾、副賞…… 1名
  - ○優秀賞……賞状、盾、副賞…… 4名
  - ○入選……賞状、副賞…… 約30名
  - ○中央審査参加賞…メダル…… 約100名
- **入賞発表** 7月中旬に入賞作文を決定し、入賞者へ通知します。
- **表彰** 最優秀賞及び優秀賞受賞者を「第29回水の週間記念式典」（東京）に招待し、賞状等を授与します。
- **主催** 国土交通省
- **後援** 文部科学省　全日本中学校長会　独立行政法人水資源機構
  水の週間実行委員会

詳しくは、「水の日」「水の週間」についての国土交通省のホームページ（http://www.mlit.go.jp/tochimizushigen/mizsei/h_event_pr/event_pr01.html）をご覧下さい。

―― 第27回「全日本中学生水の作文コンクール」概要 ――

第29回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

1　応募要領

①テーマ……「水について考える」（題名は自由）

②対　　象……全国の中学生及び外国に居住する日本人中学生

③原稿枚数……400字詰原稿用紙　4枚以内

④あて先……中学校の所在都道府県水資源担当部局、ただし、外国に居住する者にあっては国土交通省土地・水資源局水資源部

⑤募集期間……平成17年4月1日（金）～平成17年5月12日（木）到着分有効、ただし、外国に居住する者にあっては、平成17年6月1日（水）までに国土交通省土地・水資源局水資源部あて必着とします。

⑥版権等……○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作文の版権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

2　応募状況

応募学校数	応募総数	学年別		
		1年	2年	3年
439校	15,726編	4,489編	6,464編	4,773編

3　審　　査

応募作文15,726編のうち、都道府県段階等の地方審査を経た139編を対象に、平成17年7月6日開催された中央審査会において、最優秀賞1編、優秀賞4編及び入選27編あわせて32編の入賞作文を決定

4　表　　彰

(1) 賞および賞品

賞		賞品
最優秀賞	国土交通大臣賞	賞状、盾、デジタルカメラ
優秀賞	全日本中学校長会会長賞	賞状、盾、電子辞書
優秀賞	水の週間実行委員会会長賞	
優秀賞	独立行政法人水資源機構理事長賞	
優秀賞	国土交通省水資源部長賞	
入選		賞状、電子辞書
中央審査参加賞		記念メダル

(2) 表彰式　　最優秀賞及び優秀賞の受賞者を平成17年7月28日（木）、東京において表彰

5　中央審査委員　（50 音順、敬称略）

赤川　正和　（㈳日本水道協会専務理事）

大橋　久芳　（全日本中学校長会会長）

須磨佳津江　（キャスター）

長崎　宏子　（スポーツコンサルタント）

仁井　正夫　（国土交通省土地・水資源局水資源部長）

福田　昌史　（独立行政法人水資源機構理事）

6　主 催 者 等

主催：国土交通省、都道府県

後援：文部科学省、全日本中学校長会、水の週間実行委員会、
独立行政法人水資源機構

第 27 回「全日本中学生水の作文コンクール」地方審査優秀者名簿

都道府県名	氏　名	氏　名	氏　名
北海道	○黒澤　萌	○小武真鈴	岡田恵実
青森県	佐々木　歩	大西里美	中村可奈子
岩手県	栃澤彩子	蛇口　智	○山田明美
宮城県	木村駿佑	三品敦子	荒川新一郎
秋田県	◎須藤　嶺	○宮川紀元	倉田みずほ
山形県	押切若菜	髙橋華緒里	大泉雄暉
福島県	◎菅野仁紀	○増子恵美	蒲倉綾子
茨城県	鴨志田弥生	飯泉満美子	金田智朗
栃木県	○林田　翔	橋本あゆみ	仙波遼子
群馬県	小板橋　匠	新井未央	○石内崇勝
埼玉県	関根エリ子	尾林慶典	木村蒔恵
千葉県	山口真歩	中村美紀	○佐野あずさ
東京都	岡本英恵	橋井亮太	前原匡子
神奈川県	井上　茜	佐々木祐樹	○鈴木亜里沙
新潟県	重野ひかる	山本莉菜	小林千晶
富山県	加藤誉也	菊池政俊	○宇波由里菜
石川県	奥山孝輔	竹森洋子	
福井県	西野嘉紘	五十嵐　希	山崎綾奈
山梨県	○椙村光貴	○河西真瑠那	矢崎寛子
長野県	早川　望	川北茉奈	桜井慎也
岐阜県	馬場智咲	○長澤奈央	○渡邊千裕
静岡県	◎横田川弥里	岸　花帆里	山口貴弘
愛知県	髙橋香帆	五月女美紀	大橋加奈
三重県	奥田千穂	守本あみ	山路彩世
滋賀県	●髙橋　渉	岩越　葵	内片綾華
京都府	福井俊助	三木友浩	大槻領子
大阪府	脇田麻優香	浦前真悠子	権藤綾香
兵庫県	○北口千裕	大塚　萌	杉吉　聖
奈良県	中井孝鴻	中西友也	福谷尭子
和歌山県	橋本　和	三浦南美	中原友里夏
鳥取県			
島根県	大原朋子	寺前まなあ	大野未香
岡山県	赤木克啓	難波千穂美	松田章子
広島県	藤本駒子	川中裕恵	中本康文
山口県	○藤井絢子	○肥中優実	◎新谷　豪
	貞明祥子		
徳島県	三橋威志	○村上睦実	林田絵美里
香川県	岸畑聖月	近藤優香	横山紗織
愛媛県	○三宅川和賀子	檜垣　碧	矢野礼菜
高知県	溝渕仁美	大原万由子	
福岡県	久保田　静	平田妃奈	井形祥子
佐賀県	橋本嘉登	吉岡慎平	
長崎県	磯　智憲	野坂里穂	○南部由梨絵
熊本県	松浦ゆか	西山路子	○森田大介
大分県	工藤千賀子	藤澤香菜絵	酒井絵理
宮崎県	吉野　茜	河野美咲	○神田貴央
鹿児島県	○小野原三誉	瀬戸口大介	○迫田　和
沖縄県	○友利翔耶	○狩俣雅代	上原麻里
海外	○藤田絢子	鵜尾星香	大橋　武

（注）氏名の前の印は、中央審査会における入賞者で、●は最優秀賞、◎は優秀賞、○は入選

第 27 回「全日本中学生水の作文コンクール」応募状況

都道府県名	応募学校数	応募総数（編）	学年別（人）		
			１年	２年	３年
北海道	13	86	13	40	33
青森	6	44	2	8	34
岩手	10	36	7	19	10
宮城	6	19	2	6	11
秋田	8	54	45	3	6
山形	2	38	0	5	33
福島	11	239	58	133	48
茨城	17	656	221	205	230
栃木	12	673	62	292	319
群馬	6	766	130	274	362
埼玉	9	429	20	224	185
千葉	19	872	328	275	269
東京	20	1,056	429	584	43
神奈川	23	1,400	605	519	276
新潟	9	237	77	52	108
富山	8	727	295	172	260
石川	4	230	0	174	56
福井	8	238	20	134	84
山梨	2	119	0	118	1
長野	4	28	1	15	12
岐阜	8	79	2	74	3
静岡	15	393	172	105	116
愛知	13	430	182	144	104
三重	5	427	69	307	51
滋賀	7	489	178	178	133
京都	10	176	18	47	111
大阪	6	38	30	6	2
兵庫	11	187	134	23	30
奈良	4	113	40	65	8
和歌山	18	852	196	375	281
鳥取	0	0	0	0	0
島根	3	25	0	3	22
岡山	4	42	2	21	19
広島	6	439	26	277	136
山口	8	21	1	16	4
徳島	4	19	8	3	8
香川	10	103	97	6	0
愛媛	8	342	4	159	179
高知	2	4	1	2	1
福岡	5	410	87	177	146
佐賀	5	16	1	5	10
長崎	6	237	1	169	67
熊本	36	2,204	776	872	556
大分	7	164	8	4	152
宮崎	16	153	41	46	66
鹿児島	16	383	99	120	164
沖縄	4	10	0	2	8
海外	5	23	1	6	16
合計	439	15,726	4,489	6,464	4,773

（注）海外は、ドイツ、トルコ、スイス、台湾、韓国

「全日本中学生水の作文コンクール」応募状況の推移

	応募学校数	応募総数	性別		学年別		
			男	女	1年	2年	3年
	(校)	(編)	(編) (%)	(編) (%)	(編) (%)	(編) (%)	(編) (%)
第1回 (昭和54年度)	634	4,875	1,878 (39)	2,997 (61)	1,513 (31)	1,710 (35)	1,652 (34)
第2回 (昭和55年度)	486	3,930	1,446 (37)	2,484 (63)	1,245 (32)	1,462 (37)	1,223 (31)
第3回 (昭和56年度)	487	5,569	2,159 (39)	3,410 (61)	2,004 (36)	1,974 (35)	1,591 (29)
第4回 (昭和57年度)	512	5,111	1,878 (37)	3,233 (63)	1,923 (38)	1,848 (36)	1,340 (26)
第5回 (昭和58年度)	495	4,192	1,435 (34)	2,757 (66)	1,925 (46)	1,214 (29)	1,053 (25)
第6回 (昭和59年度)	531	7,013	2,905 (41)	4,108 (59)	2,923 (42)	2,115 (30)	1,975 (28)
第7回 (昭和60年度)	572	9,703	3,676 (38)	6,027 (62)	3,794 (39)	3,647 (38)	2,262 (23)
第8回 (昭和61年度)	507	7,431	3,080 (41)	4,351 (59)	2,809 (38)	2,680 (36)	1,942 (26)
第9回 (昭和62年度)	513	9,253	3,789 (41)	5,464 (59)	4,086 (44)	2,935 (32)	2,232 (24)
第10回 (昭和63年度)	498	10,119	4,233 (42)	5,886 (58)	4,212 (42)	3,501 (34)	2,406 (24)
第11回 (平成元年度)	641	13,192	5,601 (42)	7,591 (58)	5,345 (41)	4,392 (33)	3,455 (26)
第12回 (平成2年度)	551	11,782	5,320 (45)	6,462 (55)	5,404 (46)	3,549 (30)	2,829 (24)
第13回 (平成3年度)	623	12,056	4,834 (40)	7,222 (60)	5,174 (43)	3,821 (32)	3,061 (25)
第14回 (平成4年度)	552	12,718	5,332 (42)	7,386 (58)	4,898 (38)	4,533 (36)	3,287 (26)
第15回 (平成5年度)	473	13,680	5,340 (39)	8,340 (61)	4,658 (34)	5,024 (37)	3,998 (29)
第16回 (平成6年度)	557	13,647	5,591 (41)	8,056 (59)	5,247 (38)	4,577 (34)	3,823 (28)
第17回 (平成7年度)	558	15,918	6,617 (42)	9,301 (58)	5,940 (38)	5,388 (34)	4,590 (28)
第18回 (平成8年度)	491	15,479	6,595 (43)	8,884 (57)	5,403 (35)	5,606 (36)	4,470 (29)
第19回 (平成9年度)	456	13,688	5,731 (42)	7,957 (58)	5,088 (37)	4,792 (35)	3,808 (28)
第20回 (平成10年度)	493	13,764	5,935 (43)	7,829 (57)	4,842 (35)	4,609 (34)	4,313 (31)
第21回 (平成11年度)	429	11,903	4,971 (42)	6,932 (58)	4,324 (36)	4,059 (34)	3,520 (30)
第22回 (平成12年度)	413	14,283	6,288 (44)	7,995 (56)	4,737 (33)	4,968 (35)	4,578 (32)
第23回 (平成13年度)	362	11,841	5,131 (43)	6,710 (57)	3,862 (33)	3,844 (32)	4,135 (35)
第24回 (平成14年度)	413	13,442	6,159 (46)	7,283 (54)	4,878 (36)	4,691 (35)	3,873 (29)
第25回 (平成15年度)	453	13,385	5,980 (45)	7,405 (55)	4,100 (31)	4,618 (34)	4,667 (35)
第26回 (平成16年度)	452	16,488			5,595 (34)	5,655 (34)	5,238 (32)
第27回 (平成17年度)	439	15,726			4,489 (29)	6,464 (41)	4,773 (30)
合計	13,591	300,188			110,418 (37)	103,676 (34)	86,094 (29)

(注)・第10回から海外在住中学生の作文募集を始める。
・第26回から作文応募時の性別表記を不要としている。
(教育現場における男女共同参画社会づくりに向けた取り組みに配慮)

第27回「全日本中学生水の作文コンクール」表彰式

全国からの応募作文15,726編の中から選ばれた最優秀賞1編と優秀賞4編の受賞者の表彰式は、平成17年7月28日（木）に第29回「水の週間」記念式典（科学技術館）で実施された。

最優秀賞作文を発表する髙橋 渉さん

喜びの受賞者たち

（中央審査委員）

赤川正和
審査委員

大橋久芳
審査委員

須磨佳津江
審査委員

長崎宏子
審査委員

仁井正夫
審査委員

福田昌史
審査委員

国土交通省

国土交通省土地・水資源局水資源部

〒100-8918　東京都千代田区霞が関２－１－２
電話　(03) 5253－8111（代表）
ホームページ　http://www.mlit.go.jp